

<p>金融・会計</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 為替変化と価格変化（為替パススルー）</p> <p>□ 貿易に内在化する排出汚染収支の世界データベース化</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 為替パススルー</li> <li>■ 国際収支変動要因</li> <li>■ 金融市場間の波及効果</li> <li>■ 世界貿易データ</li> <li>■ 排出汚染収支</li> </ul>	<p><b>【1】為替レート変動が貿易財価格並びに消費者物価に及ぼす変化の計測（為替パススルー）</b></p> <p>日本円の価値が外国為替市場で大きく変動することがあります。そのようなショックは日本経済にどのような影響を及ぼすのでしょうか？ 急激な円高は日本メーカーの海外売上に悪影響を与えるかもしれません。一方で、急激な円安は、輸入価格の上昇を伴い、国内インフレを発生させるかもしれません。もしかすると、グローバル・バリュー・チェーン化が進んだ今日では、日本の輸出や輸入と言っても中身は様々な国で生産されたものが複雑に絡み合っていて、上記のような一般論がそもそも成立していないかもしれません。この研究テーマでは、国内外の研究者と協力して為替レートの変化がどのような経路で日本経済に影響を与えているかを明確にしています。[共同研究者: 佐々木百合(明治学院大学)、翟唯揚(富山大学)、Fabien Rondeau(Université de Rennes I)] <b>研究成果:</b> (1) Global Value Chains and Exchange Rate Pass-through, 2022, presentation at the RIETI ERIC research meeting, July 22, 2022a. (2) Exchange Rate Pass-through under the Unconventional Monetary Policy Regime, 2022b, <i>RIETI Discussion Paper</i>, 22-E-20. (3) Exchange rate pass-through on Japanese prices: Import price, producer price, and core CPI," 2022c, <i>Journal of International Money and Finance</i>, 123(May). (4) Decomposition of Japan's Trade Balance, 2018, <i>International Review of Economics &amp; Finance</i>, 56, 507-537.</p>
	<p>図 1. 為替変動のヒストリカル要因分解</p>  <p>図 2. 世界供給ショック⇒所得収支</p> 
<p>吉田 裕司 Yushi Yoshida</p>	<p>図 1. 為替変動のヒストリカル要因分解 (注) Yoshida, Zhai, Sasaki, and Zhang (2022b)の Figure 11</p> <p>図 2. 世界供給ショック⇒所得収支 (注) Yoshida and Zhai (2021)の Figure 6</p>
<p>経済学部 教授</p>	<p><b>【2】貿易に内在化する排出汚染収支の世界データベース化</b></p> <p>環境問題が非常に深刻な世界的な問題として取り扱われています。世界的な協調の下、CO2の排出削減を進めることが求められています。しかし、CO2等や汚染物質等は、排出している国だけの責任でしょうか。例えば、中国で生産する際に排出された温暖化ガスや汚染物質は、中国製品を欲する世界中の国の需要から生み出されています。すなわち、中国の拡大する輸出を支える中国国内の生産から生じる排出汚染は、需要国の責任と考えることもできます。このような分析を可能にするために、研究では世界全ての国の輸出・輸入から発生する汚染物質の量を推計したデータベースを作成しています。[共同研究者: 本間聡(東海大学)]</p> <p><b>研究成果:</b> (1) Convergence in Pollution Terms of Trade, 2019, <i>Journal of International Trade &amp; Economic Development</i>, 28(5), 603-627. (2) An Empirical Investigation of the Balance of Embodied Emission in Trade: Industry Structure and Emission Abatement, 2020, <i>Economic Modelling</i>, 92(11), 277-294.</p>
<p><b>【プロフィール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●専門分野             <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際金融</li> <li>・国際貿易</li> <li>・ファイナンス</li> </ul> </li> <li>●略歴             <ul style="list-style-type: none"> <li>・1968年 京都生まれ</li> <li>・1984年～1987年 イリノイ州在住 Wheeling 高校 卒業</li> <li>・1992年 神戸大学 経済学部 卒業</li> <li>・1994年 大阪大学 経済学研究科 博士前期課程 修了</li> <li>・1998年 大阪大学 経済学研究科 博士後期課程 単位取得退学 博士(経済学)2013年</li> <li>・1998年～2012年 九州産業大学 経済学部 講師・助教授・教授</li> <li>・2002年8月～2003年7月 カリフォルニア大学 サンタクルーズ校 客員研究員</li> <li>・2012年4月～現在 (独)経済産業研究所 研究会研究員</li> <li>・2012年9月～現在 滋賀大学 経済学部 教授</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>【3】株式市場間の国際的な波及分析</b></p> <p>株価の暴落のような経済的な負のショックは、世界各国の株式市場にグローバルに波及することが多々あります。そのような現象を、計量経済学(統計)的に分析しています。この研究は海外研究者からの評価が高く、多くの研究で引用されています。(被引用数 65、出所:Scopus、2022年7月4日時点)</p> <p>[共同研究者: 松木隆(大阪学院大学)、杉本喜美子(甲南大学)] <b>研究成果:</b> The Global Financial Crisis: An Analysis of the Spillover Effects on African Stock Markets, 2014, <i>Emerging Markets Review</i>, 21, 201-233.</p> <p><b>企業・自治体へのメッセージ</b></p> <p>これまで、金融機関との共同研究で、顧客マッチングと従業員パフォーマンスの分析に携わっていません。特に、企業側が気づいていない「新たな視点で」どのようなデータを分析すべきか、を提案しています。膨大なデータがまだ100%は活用されていない状況があるのではないのでしょうか。ご相談ください。</p>